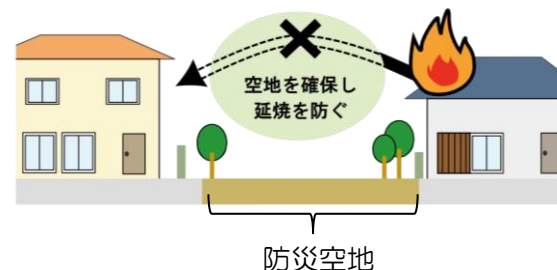


防災空地の取組み事例を紹介します！

防災空地の機能や仕組みについて

☆防災空地の必要性

- ・密集市街地では、地震災害時の火災延焼被害を抑制するために、空地を確保することが重要です。
- 市では、私有地を更地化して一定期間（10 年程度）地域へ開放してもらう防災空地の整備を進めています。（支援制度が利用できます。）



☆期待される機能

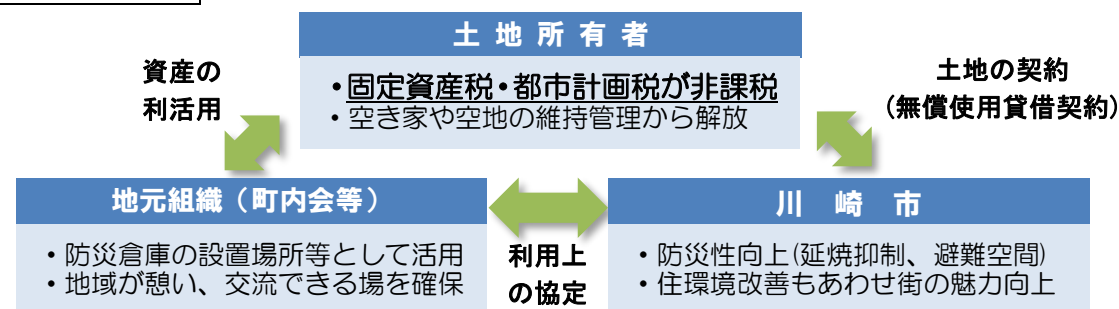
<防災面の機能>

- ①火災の延焼抑制
 - ・建物の焼失被害の減
 - ・延焼速度の低減
- ②避難等の空間・経路
 - ・安全な場所へ避難するための中継地点
 - ・消防活動の場
- ③避難所の補完
 - ・炊き出しや災害用トイレの設営

<平常時の機能>

- ④地域交流の場
 - ・散歩の休憩場所
 - ・花壇、菜園等の整備の活用など

☆防災空地の仕組み



☆防災空地の事例

- ・空き家等を取り壊し（更地化）、市が整備し地元町内会が管理しています。



1号空地(サンサンひろば)

整備前

整備後

(川崎区小田3丁目9-8)



2号空地(ニコニコひろば)

(川崎区小田2丁目19-23)



3号空地

(川崎区小田6丁目8-11)



4号空地

(川崎区小田2丁目15-17)



5号空地(中央ひろば)

(川崎区小田4丁目3-6)

防災空地は地域交流の場として使われています

○小田らんたん横丁(令和元年10月26日(土)・サンサンひろば)

☆親子連れで参加

このイベントは、防災空地が、災害時だけでなく、「日頃誰でも自由に使える場所」であることを、地域の皆さんに知っていただけるよう、小田三丁目町内会の主催で開かれました。

コマやけん玉などの昔の遊びや、駄菓子屋台を開催し、たくさんの親子連れでにぎわいました。また、来場者に「防災空地で何してみたい？」と聞いてみたオープンワークショップでは、フリーマーケットやスポーツイベントなど幅広いアイデアが集まりました。



多くの人でにぎわった「小田らんたん横丁」

○Oda putit marche(令和2年12月13日(日)・サンサンひろば)

☆ワークショップから生まれた「マルシェしたい！」

前回イベントのワークショップからこのイベントが企画されました。地元のイラストレーターさんの呼びかけにより、川崎のお店が集まって、小さなマルシェが開かれ、約300人の来場があり、にぎわいました。

マルシェにあわせて防災空地の名前付け投票を実施し、「サンサンひろば」に決定しました。



←麻生区生まれの新鮮野菜

○防災空地5号完成披露セレモニー(令和6年3月17日(日)・中央ひろば)

☆花の苗植え・炊き出しを体験！

防災空地の完成を祝い、セレモニーを開催しました。敷地内のプランターに花の苗を植える体験や、災害時に備えた豚汁とアルファ化米の炊き出し体験などを実施し、子どもから大人まで多くの人で賑わいました。能登半島地震、関東大震災100周年に関するパネルの展示も行いました。

5号空地の名前の投票を行い、最も票を集めた「中央ひろば」に決定しました。



→豚汁とアルファ化米の炊き出し

お問い合わせ先：川崎市まちづくり局防災まちづくり推進課 044-200-2731